

株式会社横浜アートニクス

2025 年度環境経営レポート

(対象期間 2025 年6月1日～ 2026 年5月31日)



発行日：2026年6月17日

目 次

項 目	ページ
□ 環境経営方針	3
□ 組織の概要	4
□ 認証・登録の対象組織・活動	4
□ 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
□ 主な環境負荷の実績	6
□ 環境経営目標及びその実績	6
□ 環境経営計画の取組結果とその評価	7 ～ 8
□ 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	9
□ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	10
□ 外部からの環境上の苦情・要請等	10
□ 環境上の緊急事態への準備及び対応・緊急事態対応の試行・訓練	10
□ 代表者による全体の評価と見直し・指示	11
□ 取組紹介欄	11

環境経営方針

【基本理念】

当社は、電気・電子機器のソフト・ハードウェア開発において、地域ならびに環境への関連性を考慮し恒久的に環境に配慮した開発を行い社会に貢献します。

【行動方針】

1. 法令規制の理解に努め、当社に適用する環境関連法規を遵守します。
2. 以下の項目を重点目標とし、環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
 - ①電力の使用量削減による二酸化炭素排出削減に努めます。
 - ②紙使用量の削減、廃棄物の分別・リサイクルにより廃棄物排出削減に努めます。
 - ③節水に努めます。
 - ④グリーン製品の積極的な購入に努めます。
 - ⑤環境へのプラス影響を促進するサービスの提供に、積極的に努めます。
3. 環境教育や社内広報活動により、環境マネジメント・システムの維持・向上に努めます。
4. 環境経営レポートを社内外へ公表します。
5. 環境経営方針に基づいた目標・活動計画について全社員への周知徹底に努め、社内のみにとどまらず、社会人としての環境保全意識の向上を図ります。

制定日：2008年10月1日

改定日：2022年6月6日

代表取締役 久家 雅英

□組織の概要

更新日：2026年6月3日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 横浜アートニクス
代表取締役社長 久家 雅英 代表取締役専務 久家 淳
- (2) 所在地
本 社 福岡市早良区西新五丁目1番30号 アール西新4階
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 代表取締役専務 TEL:092-846-0611
担当者 総務担当者 TEL:092-846-0611
- (4) 事業内容
電気・電子機器の開発設計
・回路設計 ・FPGA(field-programmable gate array)設計
・実装設計 ・プリント配線設計
- (5) 事業の規模
売上高 230 百万円

	本 社	派遣先企業(※1)	合 計
役員・従業員 名	10 名	18 名	28 名
延べ床面積 m ²	124.06 m ²	m ²	

※1 18名は社外常駐勤務の為、実質エコアクション対象社員は10名である。

- (6) 事業年度 6 月 1 日 ~ 5 月 31 日

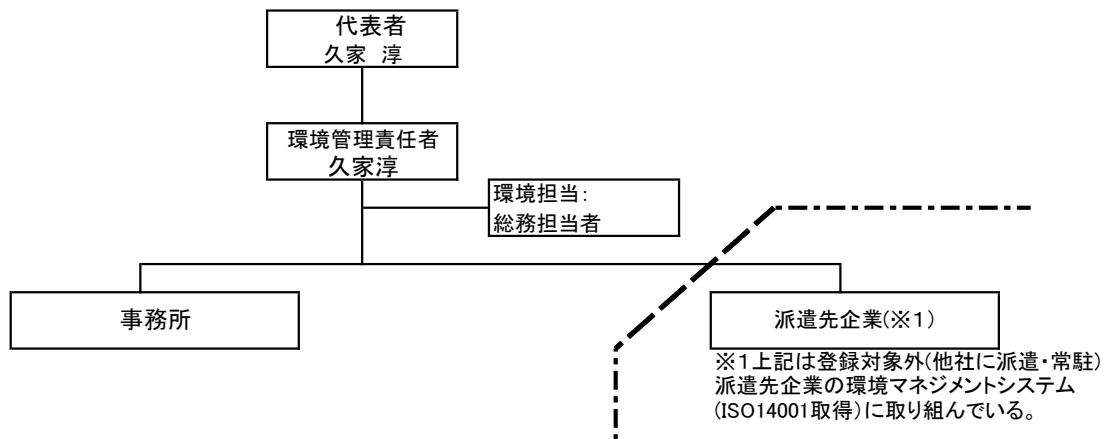
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社 横浜アートニクス

対象事業所：本 社

活動：電気・電子機器の開発設計

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する最高責任者 ・環境経営システムの実施に必要な資源(資金、人材等)を用意する ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境担当	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
活動参加者 事務所内従業員	・環境活動の推進 ・環境管理責任者の指示への対応

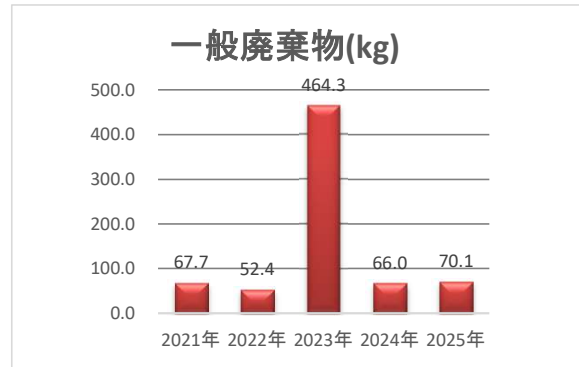
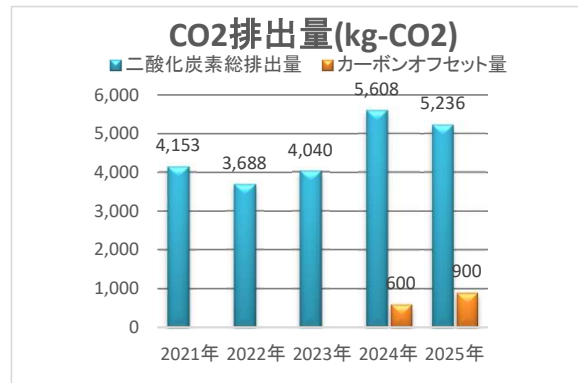
口主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,153	3,688	4,040	5,608	5,236
カーボンオフセット量	kg-CO ₂				600	900
一般廃棄物(ビル管理共通処理)	kg	67.7	52.4	464.3	66.0	70.1
コピー用紙使用量	kg	8.03	6.76	8.36	5.84	6.53

※2021年からの二酸化炭素排出係数 0.371 kg-CO₂/kWh (九州電力:2020年度調整後排出係数)

※水使用量:当社は入居ビル管理の為、使用量の数値的な把握が出来ません。

※化学物質:当社は化学物質の使用がありません。



口環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		基準値	2025年		評 価	2026年	2027年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	5,608	5,552	5,236	○	5,496	5,440
	基準年度比	2024年	99%	93%		98%	97%
一般廃棄物の削減	kg	66.0	64.7	70.1	×	64.0	63.4
	基準年度比	2024年	98%	106%		97%	96%
コピー用紙の削減	kg	8.36	7.77	6.53	○	7.52	7.27
	基準年度比	2023年	93%	78%		90%	87%
グリーン購入の推進	事務用品	47	—	51	○	—	—
	グリーン用品	27	—	31		—	—
	対応率(%)	57.4%	60.0%	60.8%		60.0%	60.0%
※基準値算出方法：2019年～2022年までに購入した47品を対象とし、その内グリーン用品27品購入済（対応率57.4%）							

※ コピー用紙(A4サイズ)は、坪量60g/m²(3.7422g/枚)にて算出した。

※ 水使用量に関しては入居ビル管理の為、日常的な節水のみを目標とし、基準値、目標値等は設定しない。

※ 化学物質は取り扱っていない為、基準値、目標値等は設定しない。

※ 製品への環境配慮については、受託業務開発仕様への進言が主となり目標値は設定しない。

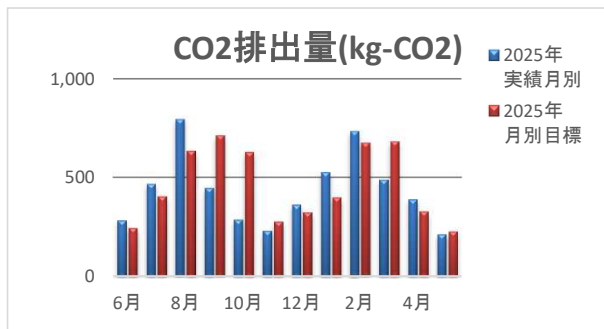
環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標:○達成 ×未達成

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった



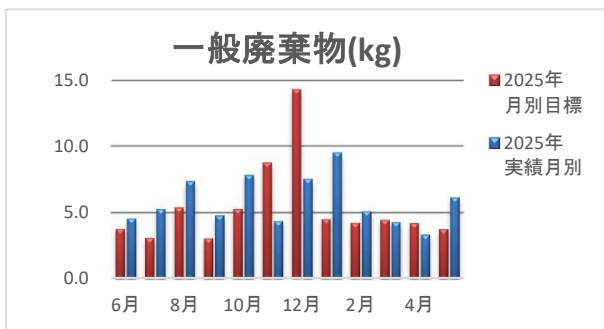
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価	次年度の取組内容
数値目標	○	目標達成。	数値目標変更なし
・空調温度の適正化(冷房26℃～28℃ 暖房22℃～20℃)	△	7月～10月および12月～3月は冷暖房使用が増え電力消費が高くなる時期が続いた。前半には冷暖房機の故障も発生し対応に苦慮した。一方で、不在時の冷暖房停止や蛍光灯の消灯など日常的な節電を継続し、無駄な使用を抑える事ができた。今年も博多湾ブルーカーボンクレジット制度を活用し0.9t-CO ₂ の購入も行った。次年度も2024年度を基準値とし管理を継続する。	継続
・外気温が比較的低い場合、窓の開閉にて温度調整を行う。	○		継続
・クールビズ・ウォームビズでの服装による温度調節	○		継続
・OA機器の省エネモード設定	○		継続
・朝8時30分まで消灯(但し1ブロックのみ7時15分より照明)、昼休み消灯	○		継続
・電気製品の電源OFFの徹底	○		継続
・未使用設備の節電(消灯等)	◎		継続



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2025年 月別目標	246	406	635	713	629	278	324	400	676	683	331	230
2025年 目標累計	246	653	1,288	2,001	2,630	2,908	3,232	3,632	4,309	4,991	5,322	5,552
2025年 実績月別	284	469	794	449	288	232	364	529	734	489	390	214
2025年 実績累計	284	753	1,547	1,996	2,284	2,515	2,879	3,408	4,142	4,631	5,021	5,236



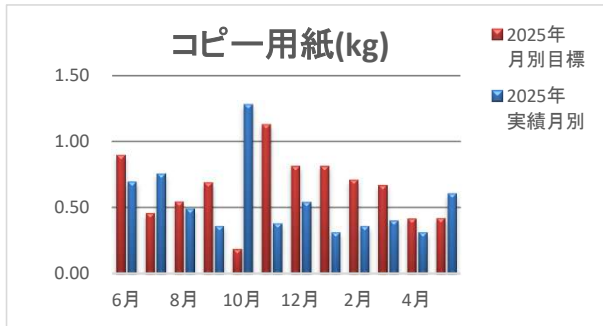
一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価	次年度の取組内容
数値目標	×	目標未達成。	数値目標変更あり
・管理ビルに従った分別方法を徹底する。	◎	年間を通して目標未達成となり排出量は前年より 約4kg 多かった。	継続
・回収専用ボックスを設置し、用紙裏面の有効活用を推進する。	○	特にペットボトル排出量の増加が影響していた。	継続
・古紙のリサイクル化	○	現行目標値が実態に対して厳しい可能性があるため、翌年度(2026年6月～)からは目標値を基準年(2024年度)±5%の維持に見直す。	継続



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2025年 月別目標	3.8	3.1	5.4	3.1	5.3	8.8	14.3	4.5	4.2	4.4	4.2	3.7
2025年 目標累計	3.8	6.9	12.2	15.3	20.6	29.3	43.6	48.1	52.3	56.8	61.0	64.7
2025年 実績月別	4.6	5.3	7.4	4.8	7.8	4.4	7.5	9.6	5.1	4.3	3.3	6.2
2025年 実績累計	4.6	9.8	17.2	22.0	29.8	34.2	41.7	51.3	56.4	60.6	64.0	70.1



コピー用紙の削減	達成状況	取組結果とその評価	次年度取組内容
数値目標	○	目標達成。	数値目標変更あり
・プロジェクター・PCモニター用テレビ利用で用紙使用量の削減	◎	コピー用紙の使用量は目標を達成した。前年度より多少増加したものの、設定した目標値の範囲内に収めることができた。ただし、2025年度の実績や過去5年間の平均値を踏まえると、次年度以降の目標は見直す必要があると考える。2023年度の基準値(8.36kg)は維持しつつ、より実績に即した改善目標へ段階的に引き上げ、無理のない範囲で継続的な削減に取り組む。	継続
・分割印刷推進による用紙使用量の削減	○		継続
・表紙再利用	○		継続
・用紙(A4コピー用紙→坪量60g/m ² (3.7422g))	◎		継続



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2025年 月別目標	0.90	0.46	0.55	0.69	0.19	1.13	0.82	0.82	0.71	0.67	0.42	0.42
2025年 目標累計	0.90	1.36	1.91	2.60	2.79	3.92	4.74	5.55	6.27	6.94	7.36	7.78
2025年 実績月別	0.70	0.76	0.49	0.36	1.28	0.38	0.54	0.31	0.36	0.40	0.31	0.61
2025年 実績累計	0.70	1.46	1.95	2.32	3.60	3.98	4.53	4.84	5.20	5.61	5.92	6.53



グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価	次年度取組内容
数値目標	○	今年度は、グリーン商品対象品目のうち未購入が9品目から8品目となり、購入比率は約61%となって目標を達成できた。ただし、1品目でグリーン商品を見落としていたため、来期は対象品目の確認を徹底し、見落としがないよう注意して取り組む。	数値目標変更なし
・有害性の少ない資材の購入	○		継続
・事務用品のグリーン購入対応率を維持するたグリーン製品を優先して選定する	△		継続



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価	次年度取組内容
数値目標は行わない	—		数値目標は行わない
・事務所内節水ポスター掲示	○	日常的に節水に取り組んだ。	継続
・日常的に節水を心掛ける	○		継続



製品への環境配慮	達成状況	取組結果とその評価	次年度取組内容
数値目標は行わない	—		数値目標は行わない
・開発仕様への参画	○	受託業務開発使用への進言を主に環境に配慮した設計に取り組んだ。	継続
・低消費電力を目的とした装置設計	○		継続
・有害物質を含まない装置設計	○		継続

□次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2026 年度環境経営目標・計画

方針	目 標	活動項目	SDGsとのつながり
二酸化炭素排出量削減	電力による二酸化炭素削減 基準年度実績 15,115 kWh 2024 年 5,608 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数: 0.371 kg-CO2/kWh 2026 年度目標 基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 5,496 kg-CO2 14,812.7 kWh 2027 年度目標 5,439 97% 2028 年度目標 5,383 96%	・空調温度の適正化(冷房26℃～28℃ 暖房22℃～20℃) ・外気温が比較的低い場合、窓の開閉にて温度調整を行う。 ・クールビズ・ウォームビズでの服装による温度調節 ・OA機器の省エネモード設定 ・朝8時30分まで消灯(但し1ブロックのみ7時15分より照明)、昼休み消灯 ・電気製品の電源OFFの徹底 ・未使用設備の節電(消灯等)	  
	一般廃棄物の削減 基準年度実績 66.03 kg 2024 年 66.03 kg 2026 年度目標 基準年度比 95～105% 目標値 62.73～69.33kg 2027 年度目標 62.73～69.33kg 2028 年度目標 62.73～69.33kg ※基準年度(66.03kg)の±5%に相当する62.73～69.33kgの範囲内で維持する。	・管理ビルに従った分別方法を徹底する。 ・回収専用ボックスを設置し、用紙裏面の有効活用を推進する。 ・古紙のリサイクル化	 
廃棄物排出量削減	コピー用紙の削減 基準年度実績 8.36 kg 2023 年 8.36 kg 2026 年度目標 基準年度比 80% 削減率 -20% 目標値 6.69 kg 2027 年度目標 6.27 75% 2028 年度目標 5.85 70%	・プロジェクター・PCモニター・テレビ利用で用紙使用量の削減 ・分割印刷推進による用紙使用量の削減 ・裏紙再利用 ・用紙(A4コピー用紙→坪量60g/m ² (3.7422g))	 
	グリーン購入の推進 事務用品のグリーン購入比率向上 2026 年度目標 60.0% 2027 年度目標 60.0% 2028 年度目標 60.0%	・有害性の少ない資材の購入 ・事務用品グリーン購入対応率の維持	
	製品への環境配慮 ※ 製品への環境配慮については、受託業務開発仕様への進言が主なため目標値は設定しない。	・開発仕様への参画 ・低消費電力を目的とした装置設計 ・有害物質を含まない装置設計	 
	課題を解決しチャンスを活かす取組	・働き方改革 有休取得促進、長時間労働の解消 インターンシップ	 
	水道水の削減 水使用量はビル管理の為、測定及び目標設定が可能な為日常的な節水のみを目標とし、基準値目標値等は設定しない。	・事務所内節水ポスター掲示 ・日常的に節水を心掛ける	
	年間活動計画 環境教育 一般教育 緊急事態対応訓練 生物多様性への取組 環境関連法規等の遵守評価 代表者による全体の評価と見直し 環境経営レポート 審査申し込み	・環境方針・目標・活動計画の周知 ・環境目標・環境活動進捗状況確認・評価 ・火災対応訓練 ・使用済切手や書き損じはがきの収集 ・作成と地域事務局への送付	  

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、蛍光灯ランプ、一次電池	当ビル指示に従って分別	○
資源有効利用促進法	ディスプレイ・パソコン・複合機等	期間中の廃棄OA無し	○
小型家電リサイクル法	固定電話・電卓・ACアダプター・ケーブル等	期間中の廃棄小型家電機器無し	○
家電リサイクル法	冷蔵庫・テレビ・電子レンジ	期間中の廃棄家電なし	○
消防法	管理ビルによる総合防災訓練	総合防災訓練(2025/10月参加)	○
福岡市廃棄物減量及び適正処理等に関する条例	一般廃棄物、蛍光灯ランプ、一次電池	当ビル指示に従って分別	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

・特になし

□環境上の緊急事態への準備及び対応・緊急事態対応の試行・訓練

作成日： 2025年10月25日



緊急事態対応手順	(パターン1: 事務所からの出火) (パターン2: 震度6弱程度の地震が発生→その後、しばらくして事務所からの出火。)
対応手順	(火災を発見したら) ① 火災を発見したら、大声で近くの社員に知らせ、発見が早ければ設置の消火器で『初期消火』を行う。 ② 社長へ連絡し指示を受ける。 ③ 初期消火に失敗した場合や発見時すでに天井まで火が上がっている等火勢が衰えなかった場合には無理をせずにはまずは避難を優先する。共用部にある屋内消火栓の発信機(ベル)を押す。また、消防署(119番)及び管理ビルに連絡をする。 ④ 避難には責任者の指示に従い、避難の際には煙を吸い込まないように姿勢を低くし口にハンカチやタオルをあて、慌てず階段を利用して避難する。エレベーターは利用しない。 ⑤ 社員は、状況を的確に判断し、消防隊が来場した場合、その指示を受ける。 (地震が発生したら) ① 状況に応じて机の下等に身を伏せて揺れが収まるまで待つ。棚や天井からの落下物による被害を避けましょう。 ② 地震がおさまったらオフィス出入口扉の開閉を確認し、出入口扉を開けたままの状態にしておき、その後責任者にしたがって行動する。 ③ 電熱器のスイッチを切る。 ④ 火災が発生したら皆で協力し合い、情報連絡のうえ初期消火活動に当たる。
予防手順	① 喫煙は指定された場所以外の共用部は全館禁煙です。また吸殻は容器に入れて消火する。 ② 引火物、爆発物など危険物の持ち込み禁止。 ③ 不審者、不審物を発見したら直ちに通報する。 ④ 共用部の廊下、階段、エレベーターホール防火戸に物を置かない。 ⑤ 終業時、最終退社者は、火気、消灯、その他の電源遮断をし、施錠してから退社する。 ⑥ 地震発生の場合の防災組織を定め、避難経路を、日頃より従業員に周知しておく。
訓練内容	昨年同様、事務所内で出火したことを想定し、上記の対応手順に問題がないか確認した。また、消火器の設置場所と使用方法を全員で再確認した。併せて、緊急連絡先の更新を実施した。
実施日	2025年10月23日(PM14:00～PM14:30)
実施場所	事務所
参加者	久家、立部、井手野、木實
対応策の検証結果	対応策の手順に従って確認したが、特に問題はなかった。
手順の改定の必要性	今回は改めて手順の策定や改定の必要性はないと判断する。

口代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2026年6月16日

【評価】

今年度は、日常的な節電の取り組みにより二酸化炭素排出量の年間目標を達成することができました。冷暖房使用が増える時期が続き、設備故障もあったが、社員の節電意識が定着してきた結果と評価しています。また、環境貢献の一環として博多湾ブルーカーボンクレジット制度を活用し、0.9t-CO₂のオフセットも引続き実施しました。次年度も2024年度を基準とし、排出量の管理を継続していくよう指示を出しています。

一般廃棄物については年間目標を達成できませんでした。特にペットボトル排出量の増加が影響していたことが要因であると分析しています。現行の目標値が実態に対して厳しい可能性があるため、翌年度からは基準年度（2024年度）の±5%以内で維持する目標へ見直し、現実的な管理を行うように担当者と協議しました。

コピー用紙については目標を達成したものの、2025年度の実績や過去5年間の平均値を踏まえると、より実態に即した目標設定が必要であると判断しております。2023年度の基準値（8.36kg）は維持しつつ、2026年度以降は段階的に改善目標を見直し、無理のない範囲で削減に取り組むように担当者と協議しました。

生物多様性保全の取り組みについては、使用済切手の収集など、日頃の小さな活動が継続されている点を評価しています。今後も可能な範囲で継続して取り組みを進めていくように会社として取り組みます

【見直し】

- ・一般廃棄物は目標値を基準年度の±5%に相当する範囲内で維持する事とする。
- ・コピー用紙は実績と平均値を踏まえて目標値を見直す。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり（実績を踏まえて見直す）
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

口取組紹介欄

当社では、生物多様性保全に向けた取り組みを、身近なところから継続して実施している。その一環として、使用済切手や書き損じハガキ等の収集を行い、市民団体「タンザニア・ポレポレクラブ」へ提供することで、世界遺産キリマンジャロ山（タンザニア）での植林活動を支援している。

また、特定非営利活動法人「難民支援協会」への寄付も継続して行っている。

なお、今年度は収集のみとなり提供には至らなかったが、過去に提供した分については、同団体のホームページに協力企業として掲載されている。



（2025年度収集分）

福岡市博多湾カーボン・オフセット制度の実施

福岡市博多湾カーボン・オフセット制度は、博多湾の藻場によるCO₂吸収量をクレジット化し、その売買を通じて海域環境の保全活動を推進する制度である。

当社は、オフィスのエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量を本制度によりカーボン・オフセットした。

2025年6月～2026年5月を対象期間とし、年間排出量の約17%に相当する0.90t-CO₂をオフセットした。今回のオフセットには、令和5年度に博多湾の藻場で吸収・固定されたCO₂によるクレジットを使用している。

今後もCO₂排出削減の取り組みを継続するとともに、カーボン・オフセットの活用を進め、脱炭素社会の実現に貢献していく。

（令和7年度 福岡市博多湾ブルーカーボン・オフセット制度の認証実績として、福岡市ホームページに掲載）

CERTIFICATE OF CARBON OFFSET	
博多湾ブルーカーボン・オフセット証明書	
 株式会社横浜アートニクス 様	
福岡市博多湾ブルーカーボン・オフセット制度実施要綱の範囲に基づき、以下のとおりカーボン・オフセットが行われ、削減量に対してCO₂の吸収・固定、博多湾の環境保全に貢献したことをここに証明いたします。	
カーボン・オフセットの対象	オフィスのエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量の一部
カーボン・オフセットが完了した 本クレジットの数量	0.9 t-CO₂
カーボン・オフセット開始年月日	令和8年1月29日
クレジットの種類	令和5年度博多湾の藻場に於ける 二酸化炭素の吸収・固定
カーボン・オフセットが完了した 本クレジットの識別番号	2023-F-220 から 2023-F-228 まで
令和8年3月16日 福岡市長 高島 宗一郎	
 福岡市 FUKUOKA CITY	